

もうすぐ体育大会！観て下さい晴れ姿！



体育大会、開催間近！

「さあ、みんな、気合い入れていくぞ～！」
最後の体育大会に燃える6年生の腹の底からの声が西部の澄み切った空に響く。僕らは精一杯生きてるぞ～！その証と言わんばかりに躰全体からほとぼしるEnergy。「お～っ」負けじと1～5年生が応える。入学したての1年生も、厳しい壁(?)に戸惑いつつも、元気ハツラツ。

さて、数ある種目の中でも、低・中・高毎に行う団体演技は体育大会の花。今年はどうな事をするのかな？先生方に尋ねてみました。

低学年は「おしり探偵&パブリカ」、中学年は「西部っ子ソーラン2019」、そして高学年は「組体操 絆～新時代へ～」。乞うご期待！

【昨年度の高学年：スタンプより】



主体的な体育大会になるよう、子供達で話し合った今年のスローガンは、

**「必笑を胸に 赤青共に絆を深め
勇気をもって 闘おう！」**

「必笑」には、力の限り頑張ったあとの「爽快感や充実感」などを伴った「笑顔」という子供達の想いが込められているそうです。

あとは、保護者、地域の皆様の応援が相乗効果を生み出し、会場全体が一体となって盛り上がりば…。思い出に残る「体育大会2019」を、新生チーム千代田西部小みんなの手で！

【著名な指導者に学ぶ！あなたの子育ては？】

2020東京オリンピックまで1年を切り、世界柔道、ラグビーWorld Cupなど、様々な世界レベルの大会が開催されています。その舞台上で活躍するTop Athleteの陰には、必ず名コーチの存在があります。ほんの数名ですが、印象的な指導法を実践しているコーチの指導について触れてみたいと思います。

【アーティスティック スイミング：井村コーチ】

短所や苦手なことに目をつぶるのは絶対にだめ。頭ごなしに指導しているように見えて、実は押ししたり引いたり…。追い詰めていると思ったら、パッと救いの手をさしのべる。でないとその子を駄目にしてしまいますから。

【男子柔道監督：井上康生氏】

リオ五輪で、全階級メダル獲得を成し遂げ、柔道男子を蘇らせた井上康生監督は、理論に基づく練習を行い、選手の可能性を信じ、アドバイスを送り励まし続けたとか。良き兄貴分として選手に関わりながら…。

【女子マラソン監督：小出義雄氏（故人）】

2大会連続のメダリスト有森裕子さんや、Qちゃんこと高橋尚子さんを金メダリストに育てた名伯楽。「いいよ～、追い込めてるねえ、凄いいよ～」短所を消すと言うより、褒めてその気にさせて力を引き出すその指導法は有名。

MLBで大活躍の大谷翔平選手を育てた、日本ハム監督栗山英樹監督は、選手と共に泣き・笑う姿勢を貫き、体操の捻り王子で有名な白井健三選手の父は、得意(大好き)な種目、「床」を思う存分に行わせ、苦手な種目をやりなさいとは、一度も言わなかったとか…。

どの指導者も超一流。ステージは違うのですが、子育てのヒントになるのかも？

そう言えば、地区懇談会のおり、何と言ってもやっぱり家庭！大人からお手本を…という話が印象に！さて、我が家にあつた子育ては？



